

いち 市の跡

1994～1995年（平成6～7）、住吉町地内で行われた発掘調査で、14～15世紀の道路跡と、宅地跡を発見しました。

道路は南北に方位をとり、路肩には側溝が掘られていました。宅地は、道路の西側に広がっており、複数の東西方向の溝によって区画されていました。区画された宅地の一部からは、鉄や銅製品の製作時に使用したフイゴはぐち羽口やルツボ、また、製鉄の残りかすである鉄滓が大量に見つかりました。

遺物の内容から、この地にはかじ鍛冶の工房があったと考えられます。また、道路に隣接して複数の宅地が形成されている状況から、この地一帯には、市が広がっていたと推測されます。

